

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	見えないだけ 1 時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 詩を通読する。 ・好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。 ◇言葉や表現が生み出している効果についても確認させる。 2 好きな言葉や表現を発表する。 ◇共感できた考えや自分にはなかった考えをノートにまとめさせる。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 ・友達の発表を聞いて考えたことも踏まえて、詩の内容が効果的に伝わるように工夫して朗読する。	【知・技】 抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由と共にまとめている。 【態】 進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
1 広がる学びへ				
4月	アイスプラネット 4 時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →P25 言葉 → 二次元コード (イヌイット)	【知・技】 抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →登場人物の心情や考え方が表れた語句に注意して、作品を読んでいる。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「ぐうちゃん」の言動から特徴を捉え、他の登場人物との関係を人物相関図にまとめている。 【態】 積極的に登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
		2	2 「ぐうちゃん」について整理する。 ・「ぐうちゃん」の特徴を捉える。(学習①-1) →P24 窓 「登場人物の設定を捉える」 →P260 窗 「文学的な文章を読むために」 ・「ぐうちゃん」に対する「僕」「母」「父」それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げ、それらに込められた思いを考える。(学習①-2)	
		3	3 「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いを読み取る。 ・「ぐうちゃん」のほら話に対する「僕」の考えの変化を捉える。(学習②-1) ・「僕」が「ぐうちゃん」の部屋に二度と行かなかった理由を考える。(学習②-2) ・手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを想像する。(学習②-3) ◇手紙の文面から「ぐうちゃん」の考えや思いを踏まえさせる。	
		4	4 「ぐうちゃん」に対する自分の思いをまとめる。 ・「ぐうちゃん」の考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら感想をまとめる。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・登場人物の設定の捉え方について、わかったことを挙げる。 ・これまでに読んだ作品の一つを取り上げ、登場人物の設定を確認する。 →人物相関図を書いて、関係を整理する。	
4月	【聞く】問いを立てながら聞く 1 時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「友達の提案」を聞き、要点をメモする。 ・意見と根拠を整理し、疑問に思うことや確認したいことを考えながら聞く。 → DVD・二次元コード ◇メモを取る際には、小見出し、番号、記号、矢印などを用いて、話の要点や順序を視覚的に整理させるとよい。	【知・技】 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →提案された意見とそれを裏付けるための根拠を区別して捉えている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)		・自分ならではの季節感を表す文章を書き、友達と読み合って、感想をまとめる。 ◇自他の季節の捉え方の共通点や相違点を明らかにしながら感想をまとめさせる。	
5月	情報整理のレッスン 思考の視覚化 1時間 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、情報を整理し、視覚的に表す方法を理解する。 ◇「観点」、「階層」、「軸」などの用語を理解させ、今後の学習に生かせるようにしておくことよい。 2 問題1～3に取り組む。 ◇生徒は文章で書いてしまうことが多い。キーワードや短い表現を使うように促す。 ◇視覚的にわかりやすくなるように、付箋や色ペンなどを準備して使わせてもよい。 3 学習を振り返る。 ・情報を書き出して整理し、関係を図で表す四つの方法についてポイントを確認する。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →問題1～3に取り組み、情報どうしの関係を図で表している。 【態】学習課題に沿って、積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使おうとしている。
5月	多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る 5時間 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 調べる職業を決め、情報を集める。 ・調べてみたい職業を決める。 ・その職業について知りたい項目や内容を挙げ、それらに適した調べ方を考えて、多様な方法で情報を集める。 ◇図書館や資料館、インターネット、インタビューなど、多様な情報収集の方法を考えさせる。 ◇複数の情報源で調べる、出典を明らかにするなど、既習事項を想起させる。 →P26「問いを立てながら聞く」 →P37[窓]「多様な情報を集め、考えをまとめるには」 →P271[窓]「インタビューをする」	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →集めた情報を表や図にまとめ、整理している。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →調べてみたい職業を決め、知りたいことに適した方法を考えて、情報を収集している。また、収集した情報を分類・整理し、自分の目的に合うものを取捨選択している。 【態】粘り強く多様な方法で集めた材料を整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。
		2	2 集めた情報を分類・整理する。 ・複数の情報源から集めた情報を、図や記号、表などを用いて分類・整理する。 →P32「思考の視覚化」 ・目的に合った情報を精査し、取捨選択する。	
		3	3 紙面構成を考える。 ◇見出しや文章、図・表・グラフ、写真などの配置を工夫させる。	
		4	4 下書きし、紙面を作る。 ・下書きをして、推敲し、清書する。 ◇見出しを付け、簡潔な文章にするよう留意させる。	
		5	5 完成した作品を読み合い、感想を伝え合う。 ・作品を読み、まとめ方や情報の活用のしかたでよいと思った点や、感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・どのような方法を用いて、情報を集めたか。 ・集めた情報をどのように整理したか。 ◇P35「つなぐ」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
5月	漢字 1 熟語の構成 漢字に親しもう 1 1 時間 ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 ◇生徒に身の回りにある熟語を挙げさせ、その構成を説明させてもよい。 2 練習問題に取り組む。 3 P40「漢字に親しもう1」に取り組む。 →P254「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P298[窓]「二年生で学習した漢字」 →P313[窓]「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P251「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →熟語の構成を意識しながら、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
2 多様な視点から				
5月	クマゼミ増加の原因を探る 4 時間 ◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →P51[言葉]	【知・技】 話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ) →文章が六つの部分でできていることを理解し、線や矢印を用いてそれらの関係を整理している。
		2	2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。 ・「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起と、それに基づく大きな仮説を確かめる。(学習①-1) ・「前提」に書かれた内容を確かめ、筆者が三つの仮説の前に、この部分を置いた理由を考える。(学習①-2) ・線や矢印を使って六つの部分の関係を整理する。(学習①-3)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C(1)ア) →筆者の主張を捉え、それと仮説1～3との関係を理解している。 ・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。(C(1)ウ) →文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。
		3	3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。 ・三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、それぞれ文章中の言葉を用いて簡潔にまとめる。(学習②-1) ・グラフや模式図、写真などを示した筆者の意図を、それに対応する文章との関係を基に考える。(学習②-2) ◇図表を示す目的や効果について考えさせる。 →P50[窓]「文章と図表を結び付けて読む」 →P262[窓]「説明的な文章を読むために」 ・「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明されたといえるか、「まとめ」を読んで自分の考えを説明する。(学習②-3)	【態】 積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。
		4	4 考えたことを話し合う。 ・筆者が検証によって否定された仮説を挙げた理由や三つの仮説をこの順序で並べた理由を考え、グループで話し合う。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・「科学的な根拠を一步一步積み上げて臨む」筆者の姿勢は、どんなところに表れているかを考える。 ・文章の構成や図表の使い方の中で、効果的だと感じたものを挙げる。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)			
6月	文法への扉 1 単語をどう分ける？ 2 時間 ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P59の導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。 2 P234文法1「自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 ・P234下段「話すこと・書くことに生かす」を読み、ここでの学習を今後の学習に生かせるようにする。	【知・技】 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ) →自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めている。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に自立語について理解を深めようとしている。
情報社会を生きる				
6月	メディアを比べよう メディアの特徴を生かして情報を集めよう 「自分で考える時間」をもとう 3 時間 (読1書2) ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理することができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 メディアを比べて、特徴を理解する。 ・P60-61に示されたさまざまなメディアを「速報性」「詳細さ」「信頼性」の三つの観点で比較し、その根拠を話し合う。 ◇教科書の例を参考に、メディアによって情報量や配信日時に違いがあることに気づかせる。 ・話し合ったメディアの特徴と根拠を、表や図などにまとめる。 →P32「思考の視覚化」	【知・技】 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) →情報メディアの特徴を、表や図などにまとめている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ) →適切な情報を得るためには、メディアの特性を捉え、発信者や配信日時、その文章が書かれた目的などを確認することが重要であると気づいている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →同一の話題について書かれた複数の情報メディアを比較し、それぞれの特徴について考えている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理している。(B(1)ア) →目的や状況に応じて、どのようなメディアで情報を集めたらよいか、考えている。 【態】 粘り強く観点を明確にして文章を比較し、学習課題に沿って目的や状況に応じたメディアの選び方を理解しようとしている。
		2	2 目的や状況に応じたメディアの選び方を考える。 ・P62「やってみよう」に取り組む。 ・大きな災害を想定し、状況に応じてどのようなメディアを選ぶとよいかを考える。 ◇東日本大震災において、通信や出版設備に被害が出たことに触れ、状況に応じて使用できるメディアに制約があることを理解させる。	
		3	3 情報を受け取る時の留意点を考える。 ・P64『「自分で考える時間」をもとう』を通読する。 ・ニュースがどのように編集されているかについて、具体例(編集の例①～③)を基に考える。 →DVD・二次元コード ◇どんな情報も、発信者によって編集されたものであることを理解させる。 4 学習を振り返る。 ・メディアから適切な情報を得るためには、どのような方法で、何を確認すべきか、わかったことをまとめる。 ・自分が今後、メディアから情報を得る際に意識していきたいと思うことを伝え合う。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
3 言葉と向き合う				
7月	短歌に親しむ 短歌を味わう 〔書く〕短歌を作ろう 4時間（読②書②） ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)エ） ◎観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えることができる。（思・判・表C(1)エ） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ） ★短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。（思・判・表B(2)ウ）	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P68「短歌に親しむ」を通読し、短歌を朗読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。（学習①） 2 短歌についてまとめる。 ・短歌の特徴についてまとめる。（学習②-1） ・本文中から、筆者のものの見方や感じ方がよく表れている表現を抜き出す。（学習②-2） ・好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。（学習②-3） 2 3 P72「短歌を味わう」を読み、内容や表現のしかたについて感じたことを話し合う。 ◇グループごとに一首ずつ担当したり、グループの中で各人が一首ずつ担当したりするなど、状況に合わせて活動させる。 3-4 4 P73「短歌を作ろう」に取り組む。 ・目にした情景、心に残る出来事や感動したことなど、題材を探して短歌を作る。 →P12「続けてみよう」 ・自他の短歌を比較して、表現の特徴や効果について話し合う。 5 学習を振り返る。 ・どのようなことに着目して、短歌を読み味わったか。 ・短歌の創作において、心情や情景などを伝えるために、どのような工夫をしたか。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)エ） →情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。また、情景や心情が生きたと伝わる言葉を選んで短歌を創作している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えている。（C(1)エ） →複数の短歌を比較し、言葉の選び方や順序にどのような特徴や効果があるかを考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書いている。 ・「書くこと」において、表現の効果をj考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。（B(1)ウ） →自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にjして短歌を作っている。 【態】進んで短歌の構成や表現の効果について考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。
7月	言葉の力 2時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。（知・技(3)エ） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 文章を要約して、内容を捉える。（学習①） ・三つのまとまりに分け、それぞれの内容を要約する。 2 3 筆者の考え方について話し合う。 ・「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが、何と何が、どのように同じだと述べているのかを考える。（学習②-1） ・美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどのように考えるか、話し合う。（学習②-2） ◇自分の知識や経験と結び付けて考えさせる。 4 学習を振り返る。 ・自分の考えを広げたり深めたりするために、今後、本や文章をどのように読んでいきたいかを考える。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。（(3)エ） →言葉に対する筆者の考え方を捉え、本や文章には、筆者の考え方が書かれていることや、それに触れることで自分の考えを広げたり深めたりできることを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合っている。 【態】進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。 (思・判・表C(2)イ)			
7月	言葉1 類義語・対義語・多義語 2時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性について興味をもつ。 2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。 ・例を基にして、それぞれの語がどのような関係にあるのかを考える。 ◇類義語には、意味が微妙に違うものや、意味は同じでも語感が違うものがあることに気づかせるとよい。 ・「生活に生かす」を読み、言葉の幅を広げるのに、類義語・対義語に注目するとよいことを知る。 ◇P296窓「語彙を豊かに」を参考にしてもよい。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →類義語・対義語・多義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な意味を表す語句などについて理解しようとしている。
7月	言葉を比べよう もっと「伝わる」表現を目ざして 1時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 言葉を分類して、類義語を集める。 ・教科書にある言葉を、「具体的な物や事柄を表す言葉」と「抽象的な概念を表す言葉」に分類する。 ・「抽象的な概念を表す言葉」から一つ選び、類義語を集める。 ◇国語辞典や類語辞典を参考にさせるとよい。 →P296窓「語彙を豊かに」 2 類義語を比較し、わかったことを話し合う。 ・集めた類義語を使って文を作り、そこからわかった違いをまとめる。 ◇意味や使い方の微妙な違いに気づかせるとよい。 3 P81「対義語を考える」に取り組む。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →抽象的な概念を表す言葉について理解し、類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨いている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨こうとしている。
読書生活を豊かに				
7月	読書を楽しむ 1時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 2 「本の紹介合戦」、「読書ポスター」、「本のリスト」の中から、夏休みに行く活動を選ぶ。 ◇学校や地域の状況に応じて活動を決めてもよい。 3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。 ・本の紹介合戦は、読書記録を基に本を決め、その魅力が伝わるような紹介のしかたを考える。 ・読書ポスターは、グループでテーマを決め、それに合った本を選ぶ。 ・読書記録は記録のしかたを確認する。 ◇教材文を基に、手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配布するとよい。 4 グループごとに活動を行い、感想を発表し合う。 ◇教室ではなく、学校図書館で授業を展開することも考えられる。 ◇次時の「翻訳作品を読み比べよう」と合わせて指導することも考えられる。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ) →活動を通して本の魅力を感じ、今後どんな本を読んでいきたいかを考えている。 【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
7月	翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま 読書コラム 「わからない」は人生の宝物 読書案内 本の世界を広げよう 1 時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。 ・翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。 ◇人物の言動や様子が描かれた表現を基に、人柄や心情の違いを捉えさせる。 2 翻訳や外国文学について知る。 ・「星の王子さま」や読書コラムを読み、「翻訳」の意味や、翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。 ◇学校図書館から本を借りてきて、実物を見せることなども考えられる。 3 P87「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 →P274 窓 「形」 →P277 窓 「生物が記録する科学——バイオロギングの可能性」	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ) →翻訳の違いによって作品の印象が異なることを知り、他の翻訳作品を楽しもうとしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →二人の翻訳者による「星の王子さま」を比較し、表現の違いによる作品の印象の違いについて発表している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →これまでの読書生活を振り返り、豊かにするためにできることを具体的に考えている。 【態】進んで表現の効果について考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。
7月	季節のしおり 夏 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	ー	・夏の行事・暦に関わる言葉や、夏の情景を詠んだ詩歌などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P73「短歌を作ろう」、P114「表現を工夫して書こう」、P216「構成や展開を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4 人間のきずな				
9月	盆土産 4時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →P105 言葉	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →登場人物の言動や情景を表す語句に着目し、それらが作品に与える印象を述べている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが話の展開や作品の印象にどう関わるかを捉えている。 【態】粘り強く登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている。
		2	2 作品の構成を捉える。 ・それぞれの場面に描かれた内容を、「時・場所・出来事」の観点でノートに整理する。(学習①)	
		3	3 登場人物の言動の意味を考える。 ・人物の言動や様子を描いた表現から読み取れる、人柄や心情について考える。(学習②-1) ◇登場人物の言動が話の展開や作品の印象にどう関わっているか考えさせるとよい。また、描かれていない言動も想像して考えさせるとよい。 →P104 窓「登場人物の言動の意味を考える」 →P260 窗「文学的な文章を読むために」 ・作品中の「えびフライ」「えんびフライ」という語について、それぞれ話し手のどんな心情が込められているか発表する。(学習②-2)	
		4	4 自分が捉えた作品の印象を伝え合う。 ・具体的な場面や描写を基に、作品の印象や特徴を伝え合う。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・登場人物の言動の意味に着目することで、どんなことが読み取れたか挙げる。 ・印象に残っている物語や小説を一つ取り上げ、自分なりの印象を、次のような形で短くまとめる。 →『□□』という作品の○○は、……からきているのではないかな。」	
9月	字のない葉書 3時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →P111 言葉	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ) →表現に着目して人柄や心情を読み取り、それを生かして他の随筆を読んでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。 【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
		2	2 二つの思い出を整理する。 ・二つの思い出の内容を整理する。(学習①-1) ・筆者がこの随筆を書いた時点を、叙述を基に考える。(学習①-2) ◇必要に応じて、時代状況を解説する。既習の1年「大人になれなかった弟たちに……」を想起させてもよい。 3 表現に着目して、人柄や心情について読み取る。 ・前半部分の思い出から想像される父親の人柄を、文章中の表現を踏まえてまとめる。(学習②-1) ・妹に対する家族の心情を、妹の行動や様子の変化に着目して想像する。(学習②-2) ・なくなった父親に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているか、表現に即して考える。(学習②-3) ◇前半と後半で、心情や人柄の描かれ方にどんな違いがあるかを考えさせるとよい。 →P110 窓「表現の効果を考える」 →P260 窗「文学的な文章を読むために」	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
9月	【推敲】表現の効果を考える 1時間 ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 木本さんの手紙の下書きを読み、適切な文字や表記に書き改める。 2 ……線部㊦㊧について、より効果的な表現を考える。 3 学習を振り返る。 ・どのような点に着目して、手紙を推敲したか。	【知・技】 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →手紙を推敲し、適切な敬語に書き改めている。 【思・判・表】 「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立って手紙を推敲し、気持ちがいよるような表現に書き改めている。 【態】 粘り強く文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。
9月	言葉2 敬語 1時間 ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。 2 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。 3 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。 ◇P119「生活に生かす」を読み、実際の生活場面で敬語を使うときの注意点について考えさせるとよい。	【知・技】 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めている。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。
10月	漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3 1時間 ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、同じ訓をもつ漢字の使い分けについて理解する。 2 教材文を読み、同じ読みで意味の異なる言葉（同音異義語）の使い分けについて理解する。 3 P121の練習問題とP122「漢字に親しもう3」に取り組む。 →P254「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P298[資]「二年生で学習した漢字」 →P313[資]「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P251「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。 ◇辞書などを使って、生徒自身に問題を作らせて、解き合ってみることなども考えられる。	【知・技】 ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →文脈や言葉の意味に注意して、漢字を読んだり、書いたりしている。 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →同音異義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解している。 【態】 学習課題に沿って、積極的に同音異義語を理解し、漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
5 論理を捉えて				
10月	モアイは語る ——地球の未来 4 時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の構成や論理の展開について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →P131言葉 2 文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。(学習①-1) ◇筆者の主張が書かれている段落(結論)を見つけ、その主張を支えるために序論と本論があることを押さえるとよい。 ・筆者が序論で示している問いと、それに対する答え、また、答えの根拠として挙げられている事実を要約し、表にまとめる。(学習①-2) 3 論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点を読み取る。(学習②-1) ・イースター島の事例を示した理由について、筆者の主張との関係に着目して考える。(学習②-2) ・「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点から話し合う。(学習②-3) →P130窓「論理の展開を吟味する」 →P262資「説明的な文章を読むために」 4 筆者の主張に対する考えを文章にまとめる。 ・筆者の主張に対する自分の考えを、自分の知識や体験と重ねて200字程度でまとめる。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・「モアイ」は何を語っているのか、「モアイ」「歴史」「未来」の三つの言葉を使って、端的に説明する。 ・論理の展開を捉えるとき、どのような点に着目すると効果的か、自分の言葉で説明する。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者の意見(主張)がどのような根拠によって支えられているかを理解し、その根拠が適切かを吟味している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。(1)エ) →文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論の進め方を吟味している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(1)オ) →自分の知識や体験と重ね、筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめている。 【態】粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
10月	思考のレッスン2 根拠の吟味 1 時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、根拠を吟味する方法を理解する。 ◇P132に示されているような事例が身の回りにないか、考えさせてもよい。 2 問題1, 2に取り組む。 ◇P133のチェックポイントで、根拠を吟味する観点を押さえるとよい。 3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり、相手の話を聞いたりするときには、根拠を把握し、その根拠に説得力があるかどうかを吟味することが大切だということを確認する。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →問題1, 2に取り組む、根拠を吟味している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
10月	根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く 4 時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするな	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 課題を決め、分析する。 ・社会生活の中から課題を決める。 →P12「続けてみよう」 →P268「発想を広げる」 ・表などを使い、観点ごとに長所と短所をまとめる。 →P34「多様な方法で情報を集めよう」 ・友達どうして整理した内容を見せ合い、助言し合う。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。 【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	ど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	2 3 4	2 立場を決めて考えをまとめる。 - 賛成・反対の立場を決め、意見を支える根拠を考える。 →P132「根拠の吟味」 3 反論を想定して、構成を考える。 - 反論を想定して、それに対する意見を考える。 - P136「構成のしかた」「構成メモ」を参考に、意見と根拠、反論に対する意見を書く順序を考え、構成メモを作る。 ◇双括弧を理解させ、「意見→根拠→反論に対する意見→意見のまとめ」の順で構成させる。 →P136窓「明確な意見文を書くには」 4 意見文にまとめる。 - P136「意見文の例」を参考に、下書きをし、推敲して600字から800字程度でまとめる。 5 意見文を友達と読み合う。 - 根拠の適切さについて、説得力があると思ったところや改善点を伝え合う。 6 学習を振り返る。 - 根拠の適切さを考えたか。 - 自分の意見が明確に伝わるように、文章の構成を工夫したか。 ◇P135「つなぐ」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	→根拠となる事実を具体的に示したり、想定される反論に対する意見を示したりしている。 【態】粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
10月	漢字に親しもう 4 1 時間 ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。 →P254「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P298窓「二年生で学習した漢字」 →P313窓「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P251「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
10月	【討論】異なる立場から考える 1 時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 テーマに沿って集められた①～⑧の事実を読む。 2 賛成・反対それぞれの立場の人が、①～⑧を基にどんな意見を述べるのかを考える。 - 一つの情報が、賛成・反対どちらの根拠にもなり得ることを理解する。 ◇例で示された⑥以外の情報(事実)を根拠にして、賛成・反対の意見を考えさせることもできる。 - 同じ観点でも、根拠とする情報により異なる意見になり得ることを理解する。 3 学習を振り返る。 - 異なる立場の人の意見を想定して、どんなことに気づいたか。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →賛成・反対それぞれの立場の人が、根拠となる①～⑧の事実から、どんな意見を述べるのかを考えている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →同じ情報を基にしたり、同じ観点で考えたりしても、立場によって異なる意見になり得ることに気づいている。 【態】進んで意見と根拠の関係について理解し、今までの学習を生かして異なる立場の人の意見を想定しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
11月	季節のしおり 秋 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立てて、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・秋の行事・暦に関わる言葉や、秋の情景を詠んだ詩歌などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P73「短歌を作ろう」、P114「表現を工夫して書こう」、P216「構成や展開を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしえの心を訪ねる				
11月	源氏と平家 音読を楽しもう 平家物語 1時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知らることができる。(知・技(3)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立てて、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 「源氏と平家」の資料を読み、「平家物語」の主要な人物や主な戦いについて知る。 2 「平家物語」の概要と文章の特徴を知る。 3 冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。 → DVD・二次元コード ・歴史的仮名遣いに注意して正しく読む。 4 冒頭部分の現代語訳を読み、「平家物語」を貫く「無常観」のイメージをもつ。 5 作品を貫く「無常観」と重ねて冒頭部分を朗読する。 ◇漢語を交えた七五調のリズムを意識して暗唱することもある。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →冒頭部分の現代語訳を読んで、「無常観」を感じ取っている。 【態】進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習課題に沿って朗読しようとしている。
11月	扇的 ――「平家物語」から 3時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知らることができる。(知・技(3)イ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立てて、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 2 「平家物語」の冒頭部分と「扇的」を繰り返し朗読する。(学習①) → DVD・二次元コード ◇古典の文章独特の調子や響きに気づかせるとよい。 3 登場人物の言動から、心情を考える。 ・与一、見守る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動から考え、話し合う。(学習②-1) ・「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合う。(学習②-2) ◇P156「弓流し」の場面も含めて読み、義経の言動から武士の考え方などを捉えさせる。 4 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。 ・「扇的」に登場する人物たちの言動から読み取ったものを見方や考え方について、自分の考えを述べる。(学習③) ◇登場人物の言動を文章から引用して、考えたことを伝えさせるとよい。 ◇P284「敦盛の最期」を読んで、武士の生き方や価値観などを捉えさせてもよい。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →与一や義経の言動、扇的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のもの見方や考え方を捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →「扇的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。 【態】進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)		◇P168「律詩について」を読み、絶句と律詩の違いを理解させる。好きな漢詩を選ぶ際、教材の三つの漢詩に「春望」を加えることもできる。 5 学習を振り返る。 ・漢詩特有の言葉遣いや調子を感じられる部分を発表する。 ・それぞれの漢詩から、どんな情景や心情を読み取ったか、話し合う。	
7 価値を語る				
12月	君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ 4 時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →P183言葉 2 「君は『最後の晩餐』を知っているか」の内容を捉える。 ・「最後の晩餐」(P173, 174)の図版と本文を結び付けて読み、「解剖学」「遠近法」「明暗法」が使われているところを理解する。(学習①-1) ・筆者が「最後の晩餐」を「カッコいい」と思った理由について、文章中の言葉を使って簡潔にまとめる。(学習①-2) 3 3 文章を比較して、構成や表現の特徴を捉える。 ・観点を決めて「君は『最後の晩餐』を知っているか」と『最後の晩餐』の新しさを比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を確認する。(学習②-1) ・文章の構成や表現の特徴について、比較を通して発見したことを発表する。(学習②-2) →P182窓「観点を明確にして文章を比較する」 →P262窓「説明的な文章を読むために」 4 4 考えたことを文章にまとめる。(学習③) ・筆者がなぜこのような書き方を選んだのか、目的や意図と結び付けて考える。 ・文章の構成や表現が、文章全体にどのような印象を与えているかを考える。 5 学習を振り返る。 ・比較によって初めて気づいたことや理解が深まったことを踏まえて、文章を比較することの効果友達に報告する。 ・二つの文章に使われていた構成や表現のいずれかを取り入れ、自分が好きな作品について論じる。 ◇P183「言葉を広げる」で書き留めた「評価する時に使える言葉」を生かすこともできる。	【知・技】 - 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者が、どのような例示(具体)を基に、「最後の晩餐」を「カッコいい」(抽象)と述べているのかを理解している。 - 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) →二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している。 【思・判・表】 「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ) →二つの文章に書かれていることを比較したり、関係づけたりしながら、それぞれの文章が書かれた目的や意図を考えている。 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →文章の構成や表現の特徴について、二つの文章を比較して発見したことを発表している。 【態】粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとしている。
12月	魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く 2 時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を鑑賞する。 ・作品を鑑賞し、魅力を一文で表す。 ・根拠となる具体的な特徴、感じたこと・想像したことを付箋などに書き出す。 ◇P185「美術作品を鑑賞するときの観点」「感じたことを表す言葉」を用いて鑑賞させることもできる。 2 表現の効果を考える。 ◇作品をじっくりと見て、書き出した付箋を見直し、よりよい語句や表現、それらの効果を考えるとよい。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →作品の魅力を伝える言葉にはどんなものがあるかを考え、より効果的な語句や表現を選んでいる。 【思・判・表】 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるよ

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	2	→P184窓「作品の魅力を効果的に伝えるには」 3 鑑賞文を書く。 ・読み手を意識して、200字程度で書く。 ◇作品を知らない人が具体的にイメージでき、作品を見たいと思うような文章であるかという視点をもって推敲させるとよい。 4 文章を読み合い、意見交換をする。 ◇鑑賞する作品を同じにすると、互いの鑑賞文が比較しやすく、自分の表現の改善点も見いだしやすくなる。 5 学習を振り返る。 ・作品の魅力が伝わるように、言葉や表現をどのように工夫したか。	うに工夫している。(B(1)ウ) →作品の魅力が伝わるよう、作品に描かれている様子を具体的に説明している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →友達と鑑賞文を読み合い、意見交換をすることで、自分の鑑賞文のよさや改善点を見いだしている。 【態】進んで表現の効果を考えて描写し、今までの学習を生かして鑑賞文を書こうとしている。
12月	漢字に親しもう5 1時間 ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。 →P254「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P298窓「二年生で学習した漢字」 →P313窓「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P251「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
12月	文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 2時間 ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P187の導入や解説、P238文法2「①活用」を読み、「活用」の意味や用語について理解する。 2 P239文法2「②用言の活用 1 動詞の活用」を読み、動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組む、理解の程度を確かめる。 3 P241文法2「②用言の活用 2 形容詞・形容動詞の活用」を読み、形容詞・形容動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組む、理解の程度を確かめる。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ) →用言の活用形と活用の種類について、語例を基に理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の活用について理解しようとしている。
読書に親しむ				
12月	研究の現場によこそ 日本に野生のゾウやサイがいた頃 クモの糸でバイオリン 読書案内 本の世界を広げよう 1時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれている	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1「研究の現場によこそ」を通読する。 ◇二次元コードで、教科書に掲載されている文章の続きや、他の研究者のインタビュー記事を読めることを伝え、読書を促すとよい。 →二次元コード	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ) →教材文を通して研究者の考え方や探求心に触れ、研究に関わるさまざまな本を読もうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	ることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)		2「クモの糸でバイオリン」を通読する。 ◇実物の本を提示したり、学校図書館に置いたりすることで、生徒が本を手に取りやすくなる。 3 感想を伝え合う。 ・教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。 4 P191「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 →P274【窓】「形」 →P277【窓】「生物が記録する科学——バイオロギングの可能性」	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、感想を伝え合っている。 【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。
12月	季節のしおり 冬 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	ー	・冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P73「短歌を作ろう」、P114「表現を工夫して書こう」、P216「構成や展開を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
8 表現を見つめる				
1月	走れメロス 【書く】作品の魅力をまとめ、語り合おう 6時間（読⑤書①） ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)エ） ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。（思・判・表C(1)イ） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ） ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。（思・判・表B(2)ア）	1-2 3-4 5-6	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →P213【言葉】 2 作品の設定と構成を押さえる。 ・人物・時・場所・出来事などに着目して幾つかの場面に分け、作品の構成を確認する。（学習①） 3 場面の展開に即して人物像を読み取る。 ・冒頭から「メロス」が王城を出発する場面までで、「メロス」と「王」はどんな人物として描かれているかを考える。（学習②-1） ・村から刑場に向かう途中で、「メロス」の考え方や心情は、どんな場面でどのように変化しているかを考える。（学習②-2） ・刑場で「王」の人物像は何をきっかけにどう変化したかを考える。（学習②-3） ◇場面の展開と人物像の変化を結び付けて読み取らせるとよい。 →P212【窓】「人物像に着目する」 →P260【窓】「文学的な文章を読むために」 4 作品の魅力をまとめ、語り合う。（学習③） ・自分が感じた作品の魅力を文章にまとめる。 ・まとめた文章を基に、作品の魅力をグループで語り合う。 ◇P213「言葉を広げる」と関連させてもよい。 ◇原作（詩『人質』シラー作）をあわせて読み、構成や表現の特徴について、共通点・相違点を整理し、「走れメロス」の魅力を考える学習も考えられる。 →P182【窓】「観点を明確にして文章を比較する」 5 学習を振り返る。 ・「メロス」の行動や考え方について、共感できたところ・できなかったところを、理由と共にまとめる。 ・何に着目して作品の魅力を捉えたかを考え、他の作品を読むときにも生かせそうな観点を挙げる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)エ） →作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。（C(1)イ） →「メロス」や「王」の言動に着目して、人物の考え方や心情の変化を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →「メロス」の行動や考え方で共感できたところ・できなかったところを、自分の知識や経験と結び付けて考えている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ） →登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめている。 【態】粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。
1月	漢字に親しもう6 1時間 ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。 →P254「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P298【窓】「二年生で学習した漢字」 →P313【窓】「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P251「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
1月	文法への扉3 一字違いで大違い 2時間 ◎単語の活用，助詞や助動詞などの働き，文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。(知・技(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切にしたい，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等)	1-2	1 P215の導入や解説を読み，付属語の働きについて考える。 2 P244文法3「①付属語」を読み，付属語の種類について理解する。 3 P244文法3「②付属語の種類 1 助動詞」を読み，助動詞の働きについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み，理解の程度を確かめる。 4 P246文法3「②付属語の種類 2 助詞」を読み，助詞の種類と働きについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み，理解の程度を確かめる。	【知・技】 単語の活用，助詞や助動詞などの働き，文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。((1)オ) →助詞・助動詞の働きや種類について理解し，文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。 【態】 今までの学習を生かして，積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。
2月	構成や展開を工夫して書こう「ある日の自分」の物語を書く 4時間 ◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ) ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように，段落相互の関係などを明確にし，文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎表現の工夫とその効果などについて，読み手からの助言などを踏まえ，自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切にしたい，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等) ★短歌や俳句，物語を創作するなど，感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	1 2 3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し，学習の見通しをもつ。 1 これまでに学習してきた物語や小説を振り返る。 ・作品の設定や構成，登場人物の心情の変化について確かめる。 ◇物語を書くときに，どんな点を生かしたいかを考えながら振り返らせるとよい。 2 題材を考える。 ・生活を振り返り，取り上げたい「ある日」を選ぶ。 →P12「続けてみよう」 →P73「短歌を作ろう」 3 物語の設定とあらすじを考える。 4 構成や展開を工夫して物語を書く。 ・P218「構成の例」を参考に，起承転結の流れで構成する。 ・場面の展開が明確になるように工夫しながら，600字程度の物語を書く。 ◇登場人物の呼称を一人称，三人称のどちらかに決め，書き手の視点を貫かせる。 →P218窓「構成を工夫して物語を書くには」 →P116「表現の効果を考える」 5 友達が書いた物語を読み，助言し合う。 ◇評価の観点を示したワークシートなどを用意し，それに基づいて交流させるとよい。 6 学習を振り返る。 ・これまでに学習した物語や小説を振り返るとき，どんなところに着目したか。 ・場面の展開が明確になるように，どんなところを工夫したか。 ◇P217「つなぐ」を読み，学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	【知・技】 話や文章の構成や展開について理解を深めている。((1)オ) →これまでに学習した作品の構成や展開を振り返り，どんな点を自分の文章に生かしたいかを考えている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において，伝えたいことがわかりやすく伝わるように，段落相互の関係などを明確にし，文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →起承転結の流れで構成を考え，場面の展開が明確になるように，それぞれの場面での出来事や心情を整理している。 ・「書くこと」において，表現の工夫とその効果などについて，読み手からの助言などを踏まえ，自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →書いた物語を友達と読み合い，よい点や改善点を伝え合っている。 【態】 粘り強く文章の構成や展開を工夫し，学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
2月	言葉3 話し言葉と書き言葉 2時間 ◎話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切にしたい，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等)	1 2	1 導入の例文から，話し言葉と書き言葉の違いについて考える。 ◇学校生活の話題を，簡単な話し言葉と書き言葉で表現してその違いに気づかせるとよい。 →P182窓「観点を明確にして文章を比較する」 2 音声の特徴から話し言葉を捉え，文字の特徴から書き言葉を捉える。 ・同音異義語の伝え方を理解する。(話し言葉) ・漢字，平仮名，片仮名，句読点，常体・敬体の使い方に注意する。(書き言葉) ◇P221「書くことに生かす」を用いて，聞き取った内容を文章で伝える学習につなげることもできる。	【知・技】 話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。((1)イ) →話し言葉と書き言葉について，それぞれの特徴を理解し，表現する際にどのような注意が必要かを考えている。 【態】 今までの学習を生かして，積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
2月	漢字3 送り仮名 2時間 ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 2	1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。 2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。 3 P223の練習問題に取り組む。 ◇「活用語尾」などについて、P238文法2「用言の活用」で確認させる。 ◇教材の語以外に、間違えやすい送り仮名にはどのようなものがあるかを考えさせるとよい。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり、書いたりしようとしている。
2月	国語の学びを振り返ろう テーマを決めて話し合い、壁新聞を作る 5時間(話聞②書③) ◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ) ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1 2 3-4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 グループで話し合い、壁新聞のテーマを決める。 ・1年間でできるようになったことや考え方が変わったことを出し合う。 →P34「多様な方法で情報を集めよう」 ・自分たちの変化から「国語を学ぶ意義」を考え、グループで壁新聞のテーマを一つに決める。 ◇P6「学習の見通しをもとう」を開いて学習した内容を振り返らせるとよい。 →P112「聞き上手になろう」 →P140「立場を尊重して話し合おう」 2 壁新聞の内容を話し合う。 ・内容と割り付け、必要な写真や図を話し合う。 3 壁新聞を作る。 ・分担して、記事の下書きをする。 ◇新聞にまとめることを意識させ、結論を見出しに、詳細を本文に書かせる。 ・下書きを推敲し、記事を清書する。 →P116「表現の効果を考える」 →P226窓「考えたことをわかりやすく伝えるには」 4 壁新聞を読み合い、感想を伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・1年間の学習を振り返り、国語を学ぶ意義を見いだすことができたか。 ・伝えたいことをどのように壁新聞にまとめたか。 ◇P225「つなぐ」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	【知・技】 ・話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ) →結論を見出しに、詳細を本文に書くなど、構成を工夫して記事を書いている。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) →壁新聞のテーマを話し合う際に出た意見を、表などを用いてまとめている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →壁新聞のテーマと内容について、お互いの意見の共通点・相違点を明らかにしながら話し合い、結論を導いている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →伝えたいことの優先順位を考えて、記事の大きさや割り付けを工夫している。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立って推敲し、表現を工夫している。 【態】粘り強く文章の構成や展開を工夫し、今までの学習を生かして壁新聞を作ろうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
3月	木 2時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩を通読する。 2 詩の中の印象に残った表現を挙げ、どんな印象を受けたかを話し合う。(学習①) 3 表現の意味を考える。 ・第三連の「木は囁いているのだ」「歩いているのだ」「走っているのだ」は、木のどのような様子を表しているかを考える。(学習②-1) ◇擬人法の効果を考えさせる。 ・作者の考える「愛」や「正義」がどんなものなのかを考える。(学習②-2)	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) →「愛」、「正義」などの抽象的な概念を表す言葉に着目し、詩の中での意味を考えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。
		2	4 作者のものの見方について語り合う。(学習③) ・「ぼく」が「木」のことを、これほど好ましく思っている理由を考える。 ・詩の中で「木」と対比されているものについて考える。 ◇詩から読み取った作者のものの見方について、自分のこれまでの知識や経験と結び付けて考えさせるとよい。	【態】進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。

振り返り				
3月	学習を振り返ろう 3時間(読①話聞①書①) ◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ) ◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効	1	1 P256の小説を読み、学習課題に取り組む。 ・長編版「アイスプラネット」の冒頭を読み、教科書の文章と比較する。 →P14「アイスプラネット」 ・設定の違いを表にまとめる。 ・登場人物の違いによって加わる展開の可能性について考える。 ◇「つなぐ」を読み、構成や展開、表現の効果を考えるには、複数の文章を比較すると効果的であることを押さえるとよい。	【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →相手の心が動くように、卒業生に贈る言葉を選び、その理由を考えている。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →敬語の働きを理解し、電子メールの下書きを推敲している。 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →根拠を明確にして、卒業生に贈る言葉について書いている。
		2	2 P257の提案を聞き、学習課題に取り組む。 ・大川さんの提案を聞き、大川さんが卒業生に伝えたいことは何かを考える。 ◇教科書の文章を読ませてもよいが、音声聞かせてメモを取らせたいほうが望ましい。 →DVD・二次元コード →P26「問いを立てながら聞く」 ・自分が卒業生に言葉を贈るとしたら、どんな言葉を選ぶかを考え、出典を明らかにして、その言葉と選んだ理由を書く。 →P54「魅力的な提案をしよう」 ◇グループ内で実際に発表させ、感想を伝え合ってもよい。 ◇「つなぐ」を読み、根拠の適切さや、構成の工夫などについて確認するとよい。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →教科書の「アイスプラネット」と長編版「アイスプラネット」とを比較して読み、物語の設定の違いを捉えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →教科書の「アイスプラネット」と長編版「アイスプラネット」とを比較して読み、登場人物の違いによって、どんな展開の可能性が加わるかを考えている。
		3	3 P258のメールの下書きを読み、学習課題に取り組む。 ・山内さんのメールの下書きを読み、推敲する。 →P114「表現を工夫して書こう」 →P116「表現の効果を考える」 ◇「つなぐ」を読み、電子メールを書くときの留意点、気持ちや用件を的確に伝えるための工夫、敬語の使い方などについて確認するとよい。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア) ★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)		→P117「敬語」 →P272「資」『いろいろな通信文』	・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →卒業生に贈る言葉を考え、出典や理由を明らかにして、話の構成を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →「卒業生に贈る言葉」についての大川さんの提案を論理の展開に注意して聞き、話し手の伝えたいことを捉えている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →気持ちや用件が的確に伝わるように電子メールを書いている。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立ち、表現の効果を考えて電子メールを推敲している。 【態】進んで登場人物の設定のしかたや根拠の適切さを考え、今までの学習を生かして、学習課題に取り組もうとしている。